

お茶の水女子大学附属高等学校における高大連携の取組

—お茶の水女子大学および東京工業大学との連携—

副校長 石 井 朋 子

1. はじめに

本校では、お茶の水女子大学との高大連携特別教育プログラムを2004年度より、東京工業大学との高大連携教育を2011年度より行っている。お茶大については2012年3月に第1期生8名が大学を卒業し、一区切りを迎えたこととなり、2012年9月には学内シンポジウムを行った。東工大とはまだ1期生が大学に入学したばかりであるが、両大学との高大連携を比較し、その成果と課題について報告を行った。

2. 発表概要

(1) お茶の水女子大学との高大連携特別教育プログラムは次の4つの事業から構成されている。

- (1) 学校設定科目「教養基礎」(国語・数学・英語、1・2年必修、3年選択)
- (2) 附属高校生向け公開授業(2・3年希望者)
- (3) 「選択基礎」(3年希望者、一定条件あり)
- (4) 附属高校生向けキャリアガイダンス(1年全員、2年希望者)

公開授業は2006年度から2013年度まで約400名(年間40～50名)が受講した。また「選択基礎」受講者が受験することができる高大連携特別入試での進学者は文教育学部27名、理学部16名、生活科学部8名、計51名であった。

(2) 東京工業大学との高大連携教育は次の3つの事業から構成されている。

- (1) ウィンターレクチャー(1・2年全員、3年希望者)
- (2) オープンキャンパス(1～3年希望者)
- (3) サマーチャレンジ(3年希望者、一定条件あり)

3年の夏に行われる2泊3日の合宿集中研修「サマーチャレンジ」受講者が高大連携特別入試を受験することができ、2013年度に1期生3名が東京工業大学に入学した。

(3) 成果と課題

高校としての成果としては、高校生の興味・関心・意欲の高揚、進路指導の充実、受験希望中学生の評価上昇、大学間では、関係の緊密化、第1期中期目標・中期計画の実績に対する好評価が得られたことなどがあげられる。

課題としては大学教員・高校教員の負担の増加、選択基礎での学力判定の難しさ(お茶大)、高校生の進路実績の変化、進路選択への保護者の意向の反映の強化などがあげられる。東工大が加わったことにより、大学風土の違いから刺激を受けている良い面と、両大学との連携を両立させるための教員の負担増のマイナス面と両方があげられる。